

3. 河川整備の実施に関する事項

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに

河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

芦田川上流ブロックの河川のうち、河川工事の施行の場所は次のとおりです。

野間川ダム：(左岸)三原市久井町吉田

(右岸)尾道市御調町野間

山田川ダム：世羅郡世羅町別迫

河川改修

対象河川及び河川改修区間は、表 3.1、図 3.1 に示すとおりです。

表 3.1 対象河川及び河川改修区間

| 河川名 | 位 置 | 区間延長 |
|-----|-----------------------|--------|
| 御調川 | 府中市下川辺地区～尾道市御調町本地区 | 6.0km |
| 野間川 | 尾道市御調町今津地区～尾道市御調町川西地区 | 0.35km |

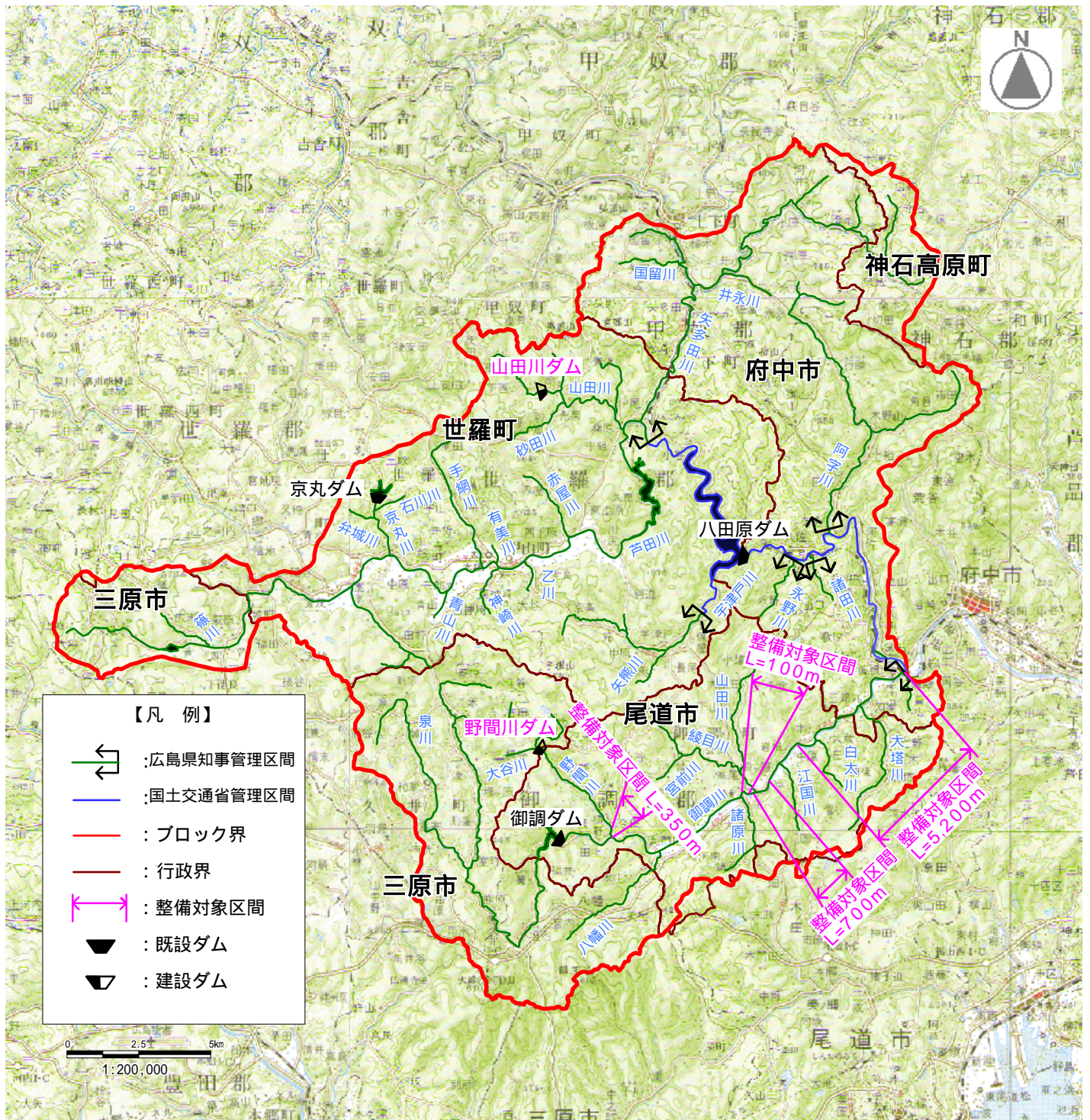


図 3.1 施行場所位置図

(御調川)

洪水氾濫^{はんらん}から家屋の浸水を防ぎ資産を守るため、府中市下川辺地区～尾道市御調町本地区、尾道市御調町市地区等において、河道拡幅や護岸の整備等を実施します。

工事の実施に当たっては、瀬や淵は魚類等の生息・生育環境を保全するため極力残します。堰^{せき}等の改築に当たっては魚類等の移動に配慮するとともに、護岸については植生の回復を期待できる構造とします。また、川幅に余裕のある箇所については、堤防や水際を緩傾斜にし水辺に近付きやすくするなど、親水空間の整備に努めます。

また、御調川の流水の正常な機能を維持するため、既設の御調ダムにより10年に1回程度の渇水^{かつすい}に対応するものとし、丸門田地点において概ね $0.34\text{m}^3/\text{s}$ を流します。

計画高水流量配分図、改修箇所の縦横断面図を図3.2、図3.3、図3.4に示します。

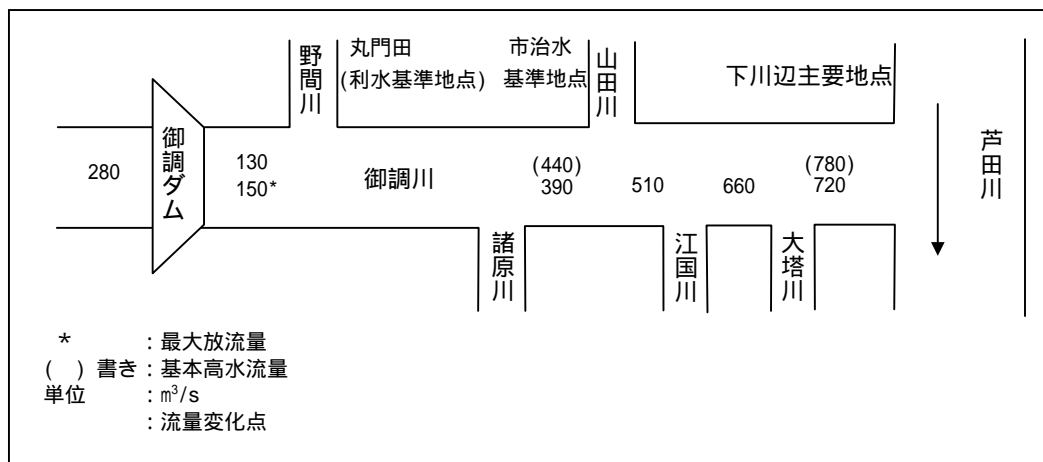
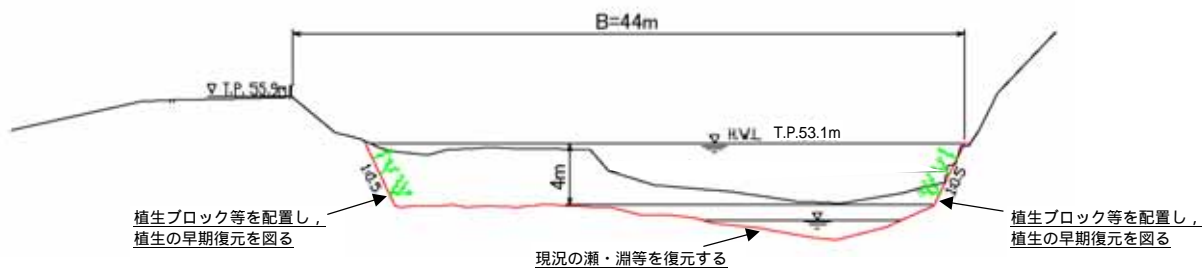
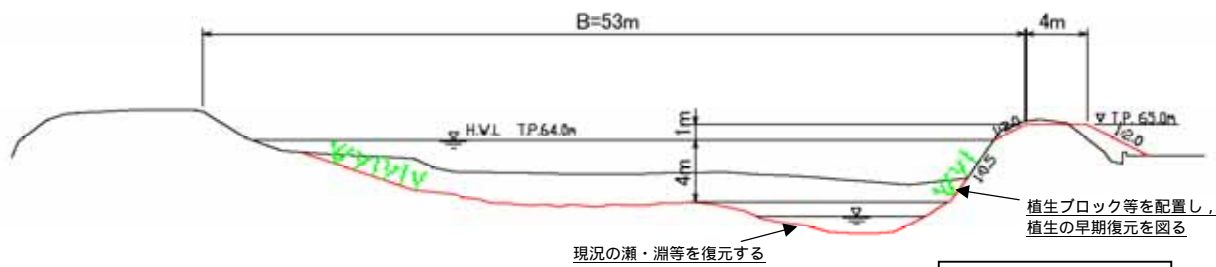


図 3.2 御調川計画高水流量配分図

河南橋より下流 100m 付近



松原井堰より上流 170m 付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。

| 凡 例 | |
|-----|----------|
| — | ： 現況の川の形 |
| — | ： 整備を行う形 |

図 3.3 御調川横断面図

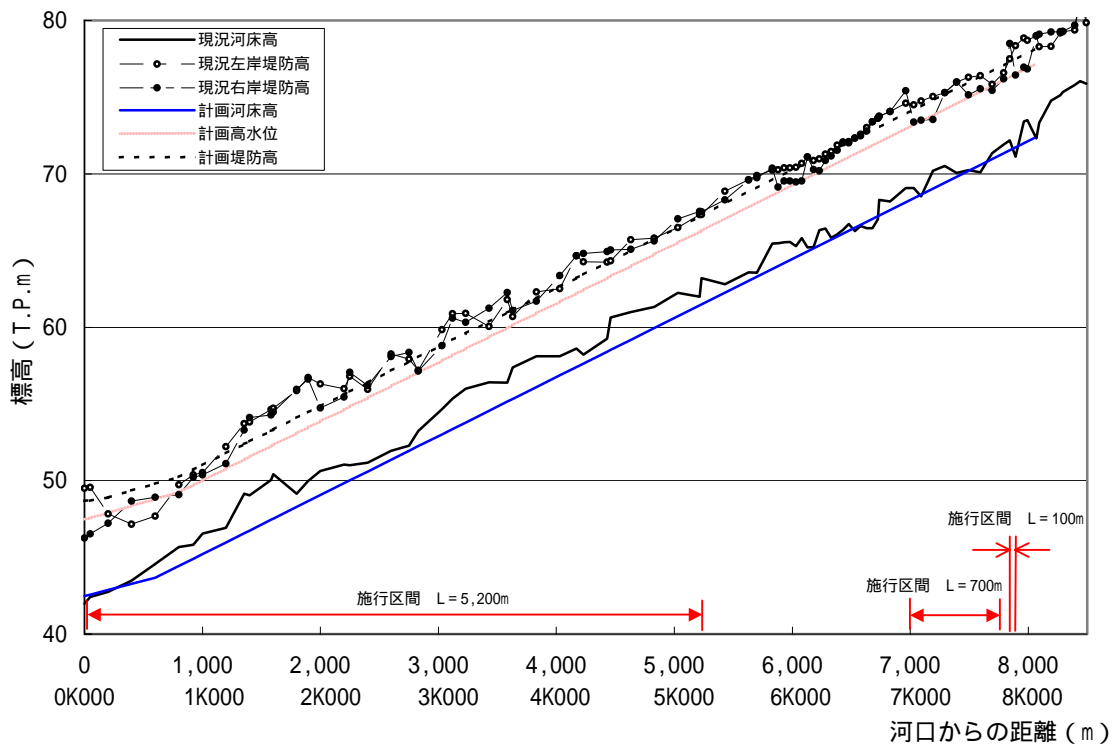


図 3.4 御調川縦断面図

御調川の改修箇所を図 3.5 に示します。

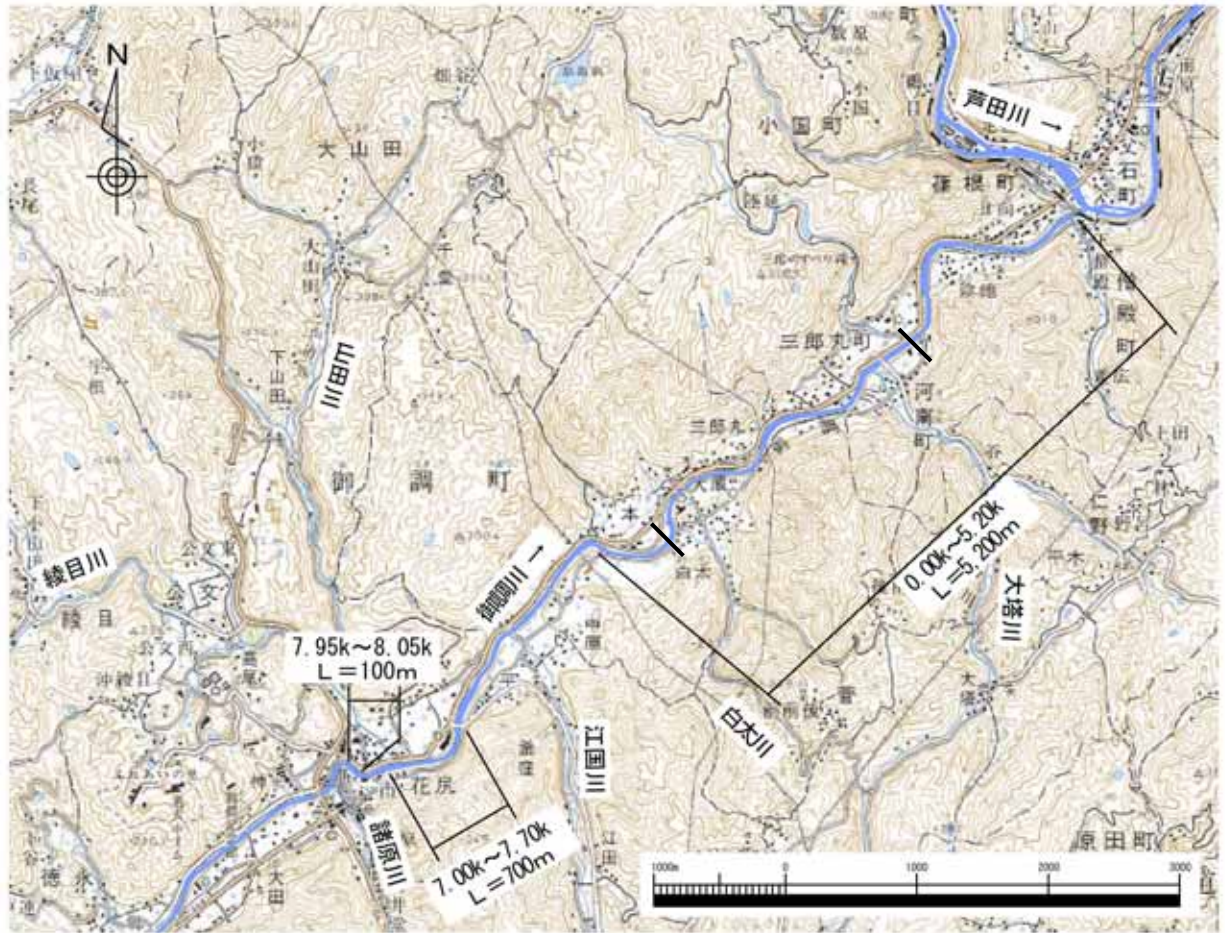


図 3.5 御調川河川整備区間位置図

(野間川)

洪水調節及び流水の正常な機能の維持と水道用水の供給のために野間川ダムを建設します。洪水氾濫から家屋の浸水を防ぎ資産を守るため、野間川ダムにより基準地点の仏谷川合流点において、流量を $75\text{m}^3/\text{s}$ から $50\text{m}^3/\text{s}$ に低減するとともに、下流部の約 350m 区間の河道改修とあいまって下流集落の水害を防ぎます。

また、野間川の流水の正常な機能を維持するため、10 年に 1 度程度の渇水に対応するものとし、仏谷川合流点において概ね $0.02\text{m}^3/\text{s}$ を流すとともに、三原市(旧久井町)の水道用水を開発します。

ダムの建設に当たっては、法面緑化等を施すほか、騒音・振動を極力抑えることや、濁水を下流に流さない等の対策をとることにより、工事中的影響をできるだけ小さくします。また、貴重種・遺跡等が確認された場合には学識者等の意見を参考に、必要に応じて対策を講じます。

計画高水流量配分図、ダム諸元、ダム平面図、標準断面図等を次に示します。

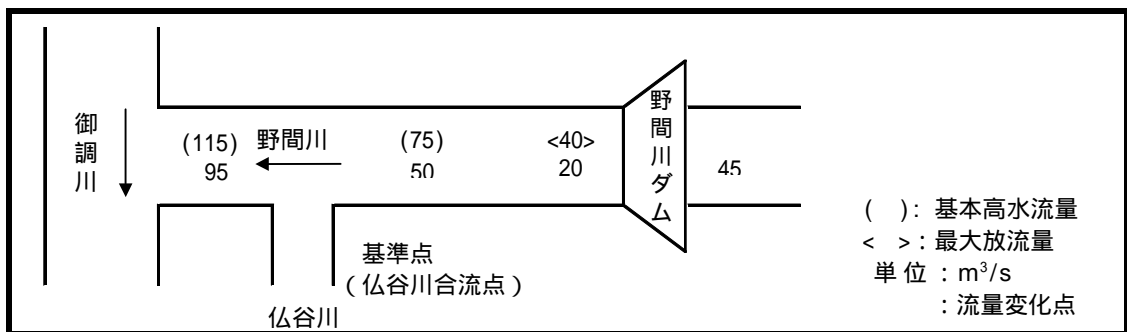


図 3.6 野間川計画高水流量配分図



図 3.7 野間川施行位置図

表 3.2 野間川ダム諸元

| 項目 | 諸元 |
|-------|--------------------------|
| 目的 | 洪水調節，流水の正常な機能の維持，水道用水の供給 |
| 形式 | 重力式コンクリート |
| 堤高 | 約 33m |
| 堤頂長 | 約 114m |
| 湛水面積 | 約 0.06km^2 |
| 総貯水容量 | 約 56.0万m^3 |

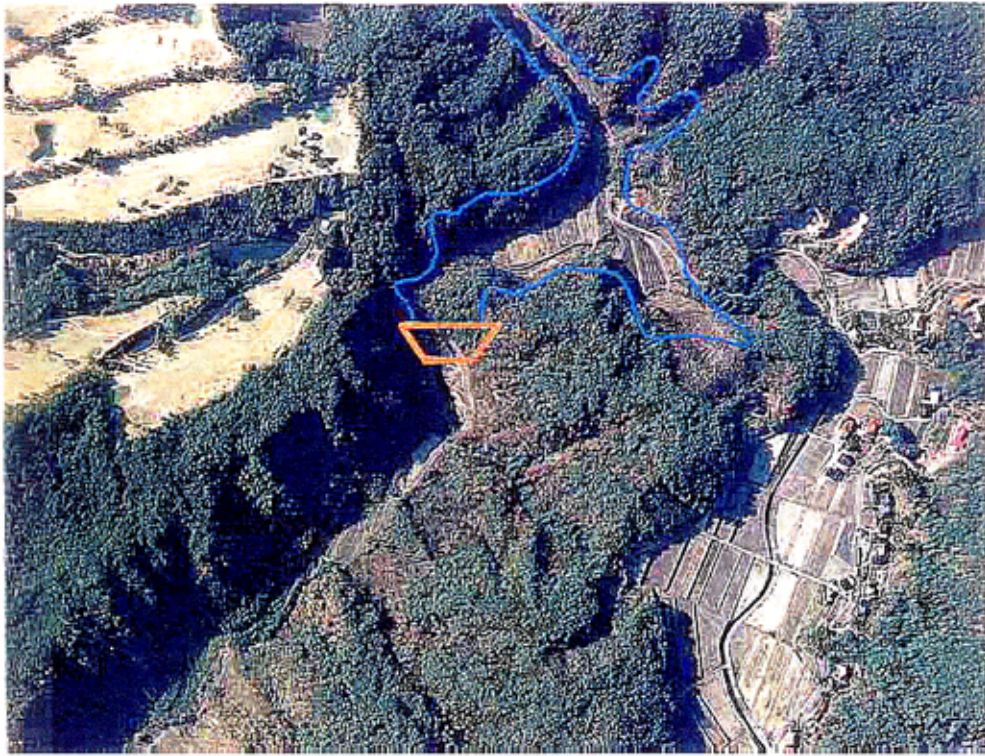


図 3.8 野間川ダム施行位置航空写真

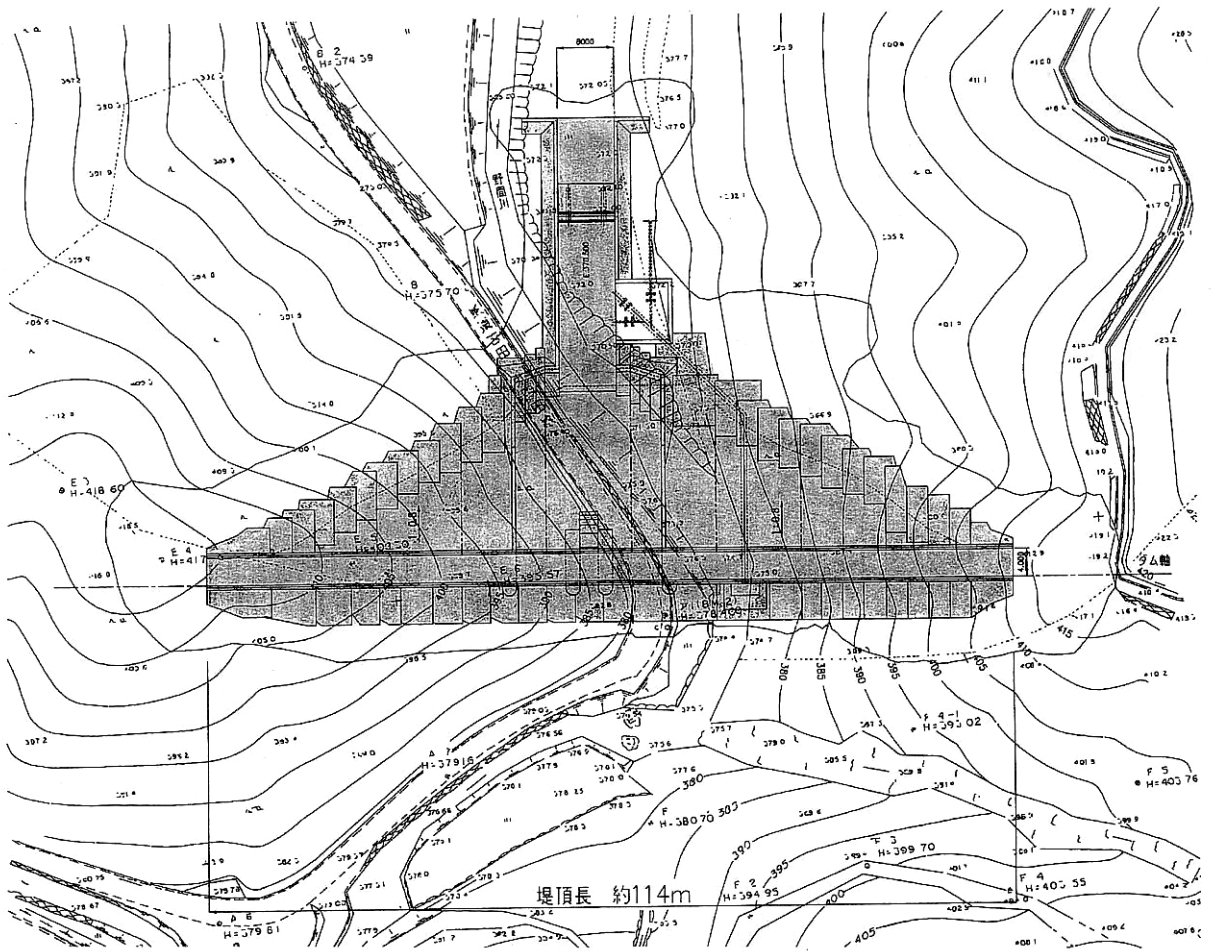


図 3.9 野間川ダム平面図

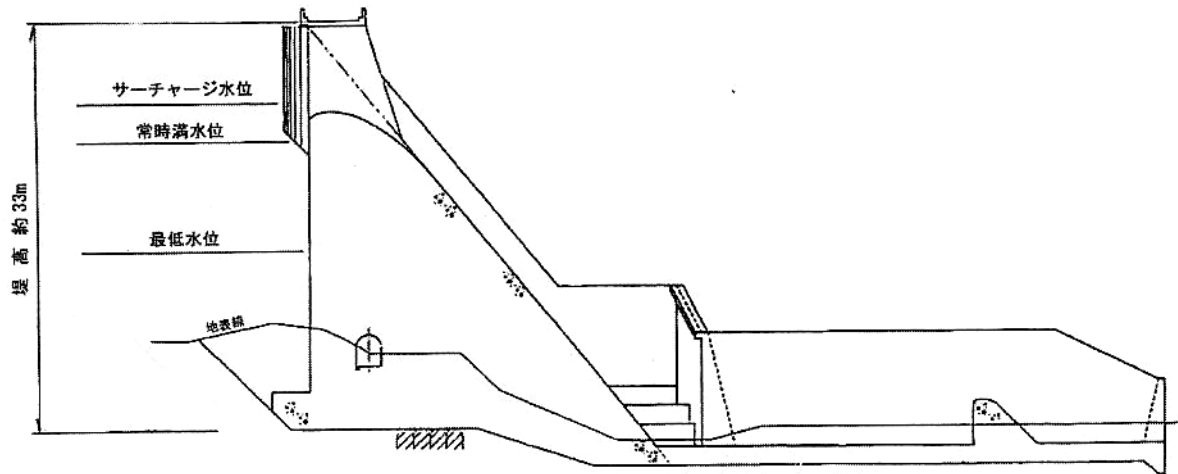


図 3.10 野間川ダム標準断面図

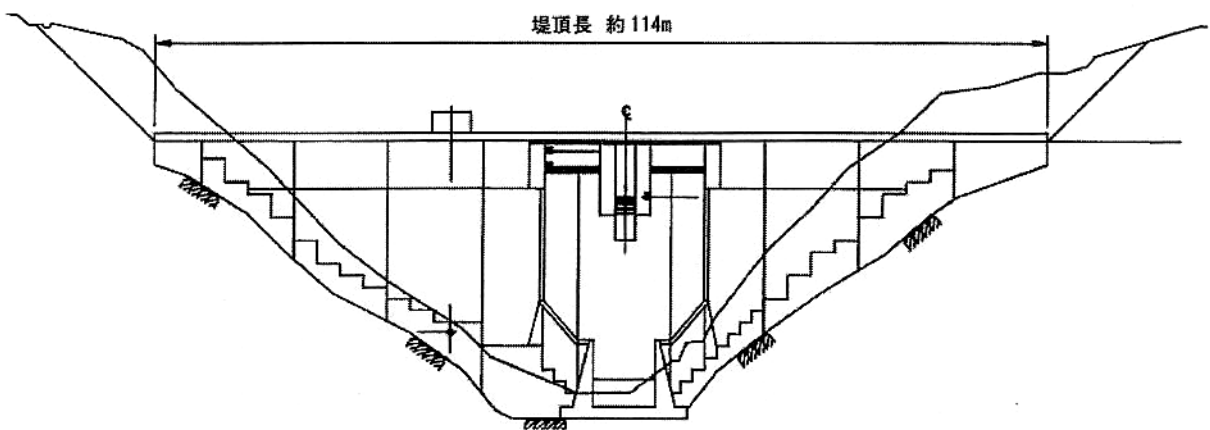


図 3.11 野間川ダム下流面図

野間川下流部の 350m 区間において，河川改修を行います。

工事の実施に当たっては，瀬や淵は魚類等の生息・生育環境を保全するため極力残します。堰等の改築に当たっては魚類等の移動に配慮するとともに，護岸については植生の回復を期待できる構造とします。また，堤防や水際を緩傾斜にし水辺に近付きやすくするなど，親水空間の整備に努めます。

改修箇所の縦横断面図を図 3.12，図 3.13 に示します。

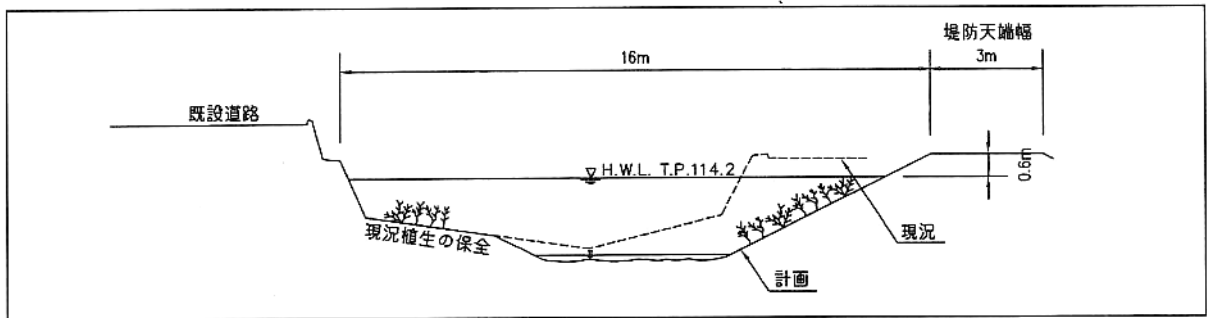


図 3.12 野間川 0k200 地点横断面図

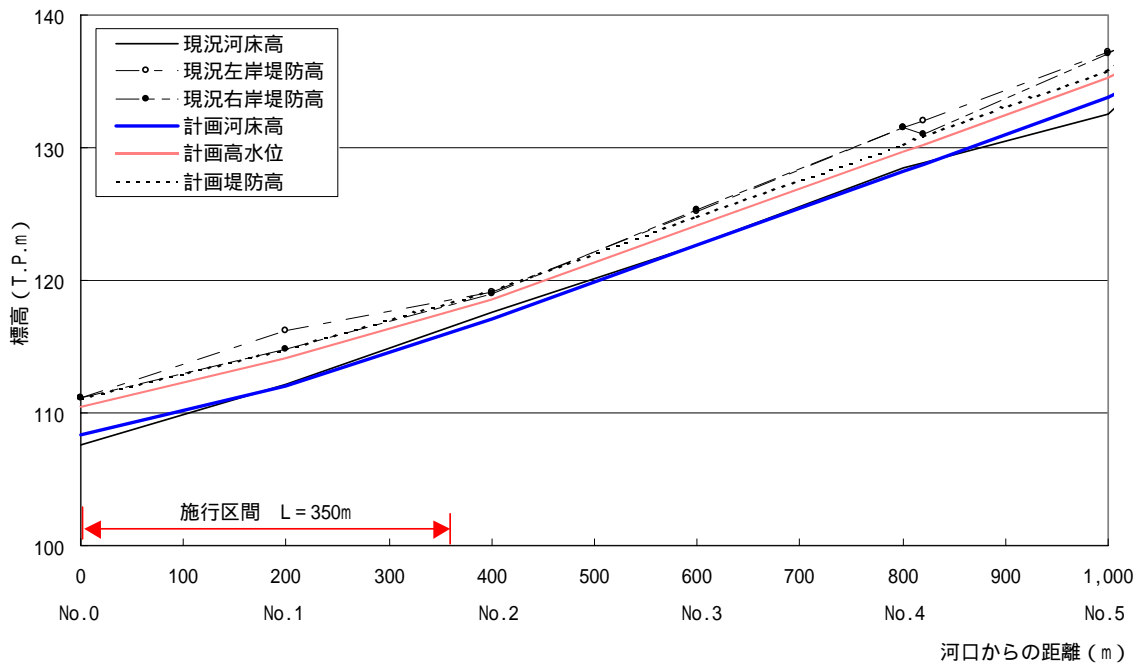


図 3.13 野間川縦断面図

野間川の河川整備区間位置図を図 3.14 に示します。

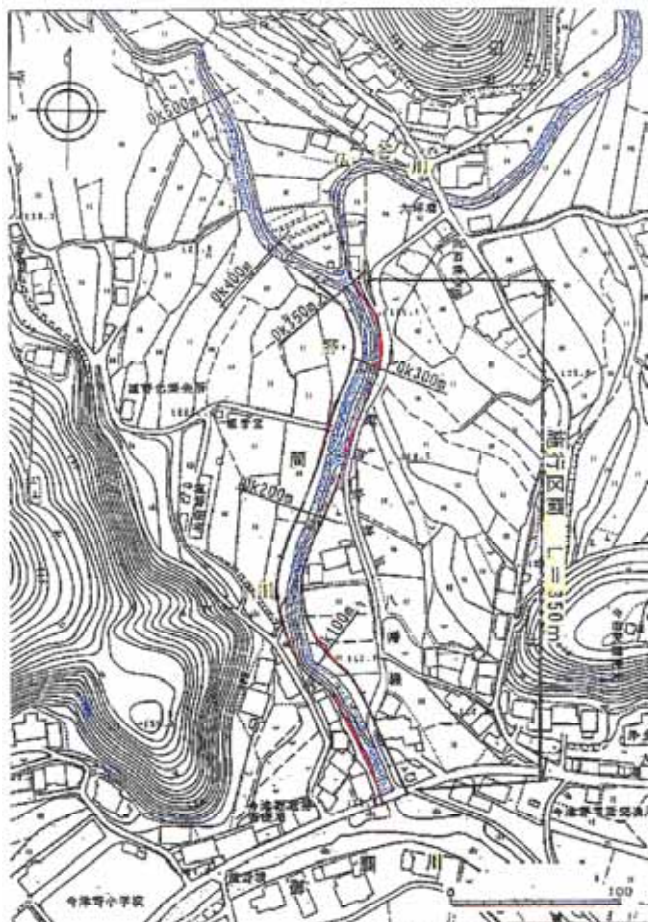


図 3.14 野間川河川整備区間位置図

(山田川)

洪水調節及び流水の正常な機能の維持と水道用水の供給のために山田川ダムを建設します。山田川ダムにおいて洪水氾濫から家屋の浸水を防ぎ資産を守るため、桑原基準地点(芦田川合流点)において流量を $165\text{m}^3/\text{s}$ から $135\text{m}^3/\text{s}$ に低減します。

また、山田川の流水の正常な機能を維持するため、10年に1度程度の渇水に対応するものとし、砂田川合流点において概ね $0.08\text{m}^3/\text{s}$ を流すとともに、世羅町おおむの水道用水を開発します。

ダムの建設に当たっては、法面緑化等を施す等、騒音・振動を極力抑えることや、濁水を下流に流さない等の対策をとることにより、工事中的影響をできるだけ小さくします。また、貴重種・遺跡等が確認された場合には学識者等の意見を参考に、必要に応じて対策を講じます。

計画高水流量配分図、ダム諸元、ダム平面図、標準断面図等を次に示します。

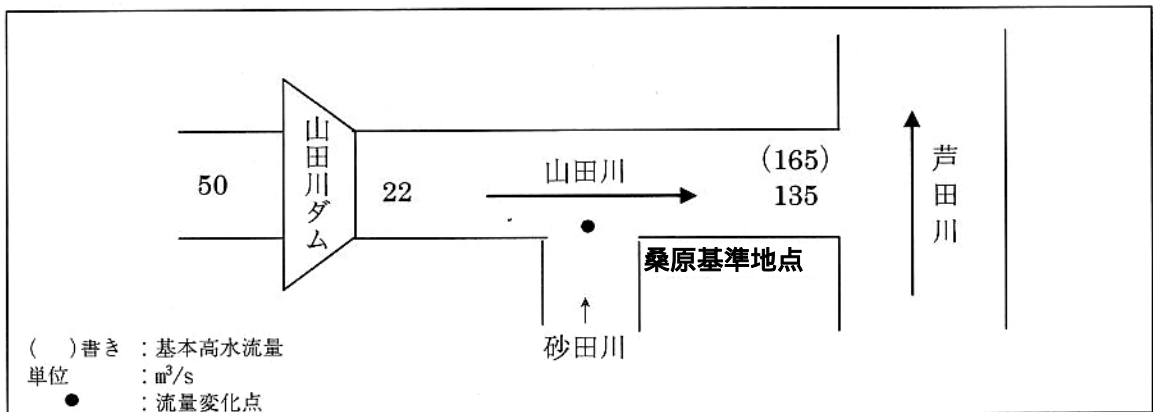


図 3.15 山田川計画高水流量配分図

表 3.3 山田川ダム諸元

| 項目 | 諸元 |
|-------|--------------------------|
| 目的 | 洪水調節，流水の正常な機能の維持，水道用水の供給 |
| 型式 | 重力式コンクリートダム |
| 堤高 | 約 32m |
| 堤頂長 | 約 205m |
| 湛水面積 | 約 0.11km^2 |
| 総貯水容量 | 約 70万m^3 |



図 3.16 山田川施行位置図

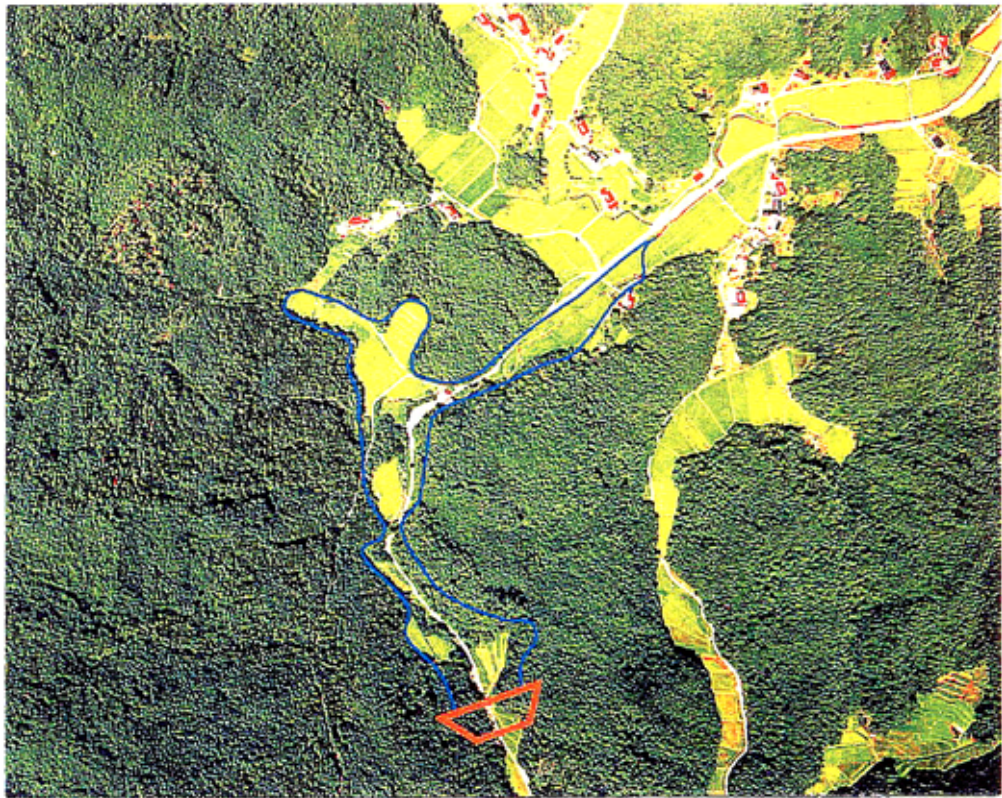


図 3.17 山田川ダム施行位置航空写真

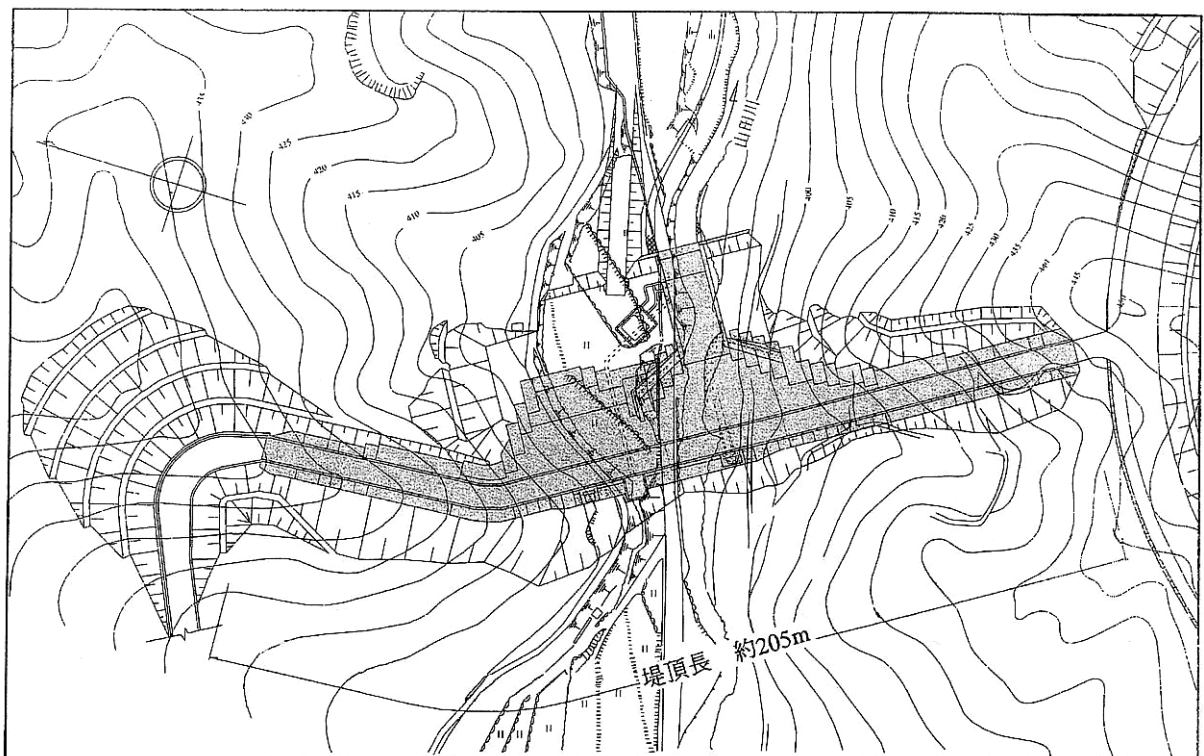


図 3.18 山田川ダム平面図

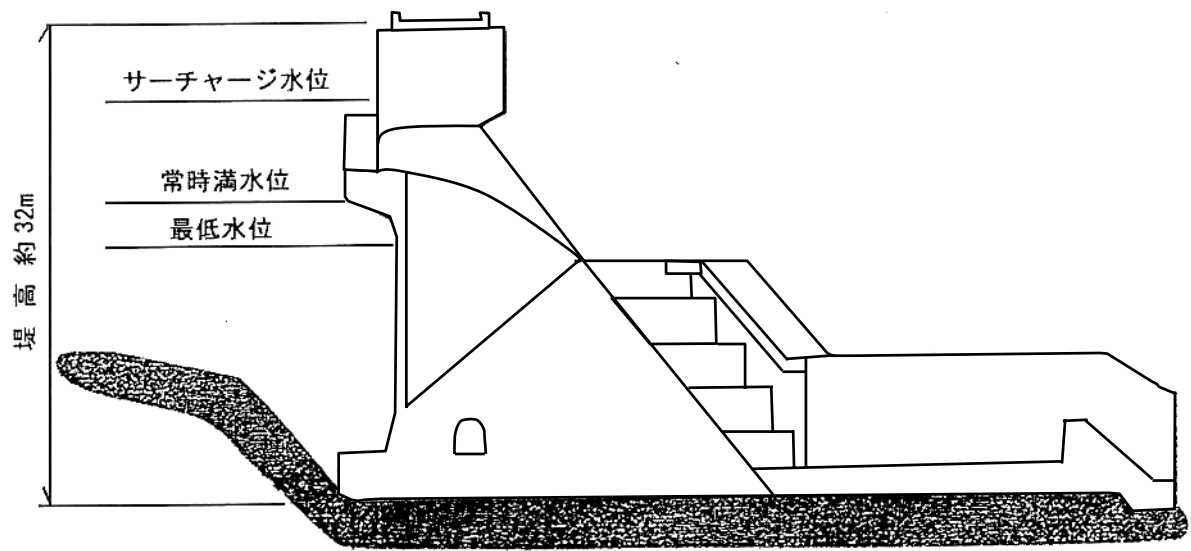


図 3.19 山田川ダム標準断面図

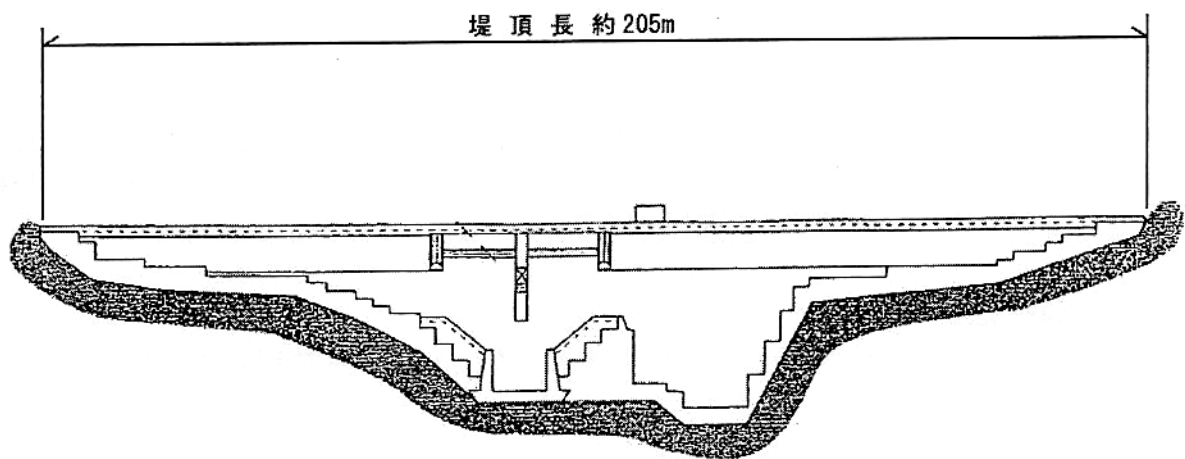


図 3.20 山田川ダム下流面図

3.2 河川の維持の目的，種類及び施行の場所

(1) 河川の維持の目的

河川の維持管理は地域の特性を踏まえつつ，洪水による被害の防止，河川の適正な利用，流水の正常な機能の維持，河川環境の整備と保全がなされるよう総合的に行います。

(2) 河川の維持の種類及び施行の場所

広島県知事管理区間においては，以下の河川維持を行います。

河床の維持

長期の間に又は出水により土砂が堆積し，洪水の流下の阻害となるなど治水上支障となる場合は，環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を行います。また，出水などによる河床の低下は，護岸など構造物の基礎が露出すると危険なため早期発見に努めるとともに，河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。

植生の維持

良好な河川環境の保持を図る必要のある箇所草刈りや植樹の管理は市町と協力して行います。

護岸，堤防の維持

護岸，堤防等について法崩れ，亀裂，陥没などの異常について早期発見に努めるとともに，河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。また，御調川において盛土により，築堤区間の堤防補強を行います。

自然と景観の維持

魚切の滝などの渓谷に代表される貴重な自然景勝地を保全するため，関係機関と連携して必要な保全対策を行います。

ダムの維持

ダムについては巡視，堆砂測量及び水質のモニタリング等を行い，貯水池の状況を把握するとともに，ダム本体について変形量及び漏水量等の測定を行います。また，観測設備，警報設備及び放流設備についても定期的な点検を行い，機能の維持管理に努めます。

水質の維持

水質については，今後も調査を行い，必要であれば水質保全対策について検討していきます。